

「井之川中学校の下久志棒踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	徳之島町立井之川中学校
2. 学年・人数	全生徒 23 人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年9月26日・30日 総合的な学習の時間（本校体育館） (2) 発表の日時・場所 令和6年10月4日 校内文化祭（本校体育館）
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名 称 下久志棒踊り（しもくしぼうおどり） (2) 由 来 本校区の下久志地区には、昔、鉱山があり、銅が掘られていた。大正15年、鉱山の採掘が最も盛んだった頃は、鳥取県や島根県などからたくさんの鉱員が下久志地区に働きに来ており、5月19日と9月23日に山の神への御礼として「山の神まつり」を行っていた。その時、奄美大島で行われていた踊りを、徳之島の青年が下久志地区の人々に伝え、「山の神まつり」で踊るようになったことが由来である。 (3) 構成等 下久志棒踊りは4人1組で2人ずつに分かれ、長い棒を持って踊る。唄に合わせて勇ましく棒を打ち合わせたり相手が振り下ろす棒を受けたりする動作を、隊形を変えながら行う。また、唄に合わせて合いの手を入れるのも特徴である。唄は前奏に続き、4回繰り返す。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	平成30年から下久志棒踊り保存会の全面的な支援の下、下久志青壮年部有志の指導により、生徒及び職員が踊りを練習している。生徒は総合的な学習の時間において郷土伝統を体験・表現することを目的として取り組んでいる。郷土に伝わる踊りを地域の方々から学ぶことは伝統芸能を継承してほしいという地域の思いに触れる機会であり、全学年で取り組むことで3年生が下級生の手本となり、上級生活躍の場にもなっている。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	 指導の様子  文化祭で発表する様子
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【生徒】 - 指導してくださった方々のおかげで文化祭では今までで一番よく踊ることができた。自分たちが地域の伝統を引き継いでいることがうれしい。指導してくださった方々に感謝したい。 【保護者】 - 生徒と先生が一体となって作り上げた文化祭で、棒踊りは大変よかった。地域に伝承されている夏目踊りや鍬踊りにも取り組んでほしい。 【保存会】 - 今後も地域住民の人材活用をしていただきたい。ご縁を大切にしながら、生徒の皆さんの成長を応援している。